

優良ホール100選 日本音響家協会認定

全国には2,500以上の劇場・コンサートホール・多目的ホールがあります。〈優良ホール100選〉は、多くのホールの中から日本音響家協会が日本劇場技術者連盟と共同で、優秀なホールを奨励する制度です。

この制度は、2000年に「音響家が選ぶ優良ホール100選」として創設され、その後2013年に名称を現在のものに変更しました。

選定のポイントは「劇場技術者からみた使いやすいホール」です。会員からの推薦をもとに日本音響家協会の評議員によって審査しています。

— 使いやすく良い仕事ができるホール —

優良ホールとは、劇場関係者から見て使いやすい・居心地のよい・創造意欲が湧く・良い仕事ができるホールのことで、下に掲げる評価項目の半数を満たしている必要があります。官民、運営形態などによる区別はしません。

1. 舞台設備が十分に維持管理され、うまく機能している。保守・修理・清掃等が十分に行われ、機器を常時使用できる状態にしてある。
2. 運用スタッフが十分な技術力を持っている。
3. 運用スタッフが高いモラルを持ち人格的に優れていて、上演される芸能に精通し、優良な上演ができるように外来スタッフに対して協力的である。
4. スタッフ間の十分な意思の疎通があり、円滑かつ安全に業務を行っている。
5. 利用受付から上演、撤収まで、利用者に対する運用スタッフの対応が良好である。

— 再審査や辞退もある —

運営主体、指定管理者などの変更(辞退も含む)、運用スタッフの交代、認定基準にそぐわない状態になったため認定取り消しの申請があった場合などには、再審査をします。閉館の場合は自動的に外されます。

この制度は、あくまで音響家や劇場技術者にとって使いやすいかどうかで選ぶものです。

従って主に施設に関連した運用ソフト面に焦点を当てています。私たちがホールで演奏会などを開くとき、気持ちよく利用できるかどうかとても重要な点です。



— これからのホールに求められるもの —

〈優良ホール100選〉には、現在の私たちにとっての最大関心事である、施設に三密を避けられるだけの広さがあるか、空調はどうなっているか、換気回数かどうか、というハード面の視点は見当たりません。

これからの「優良ホール」には、建築基準法や感染症予防法なども考慮しないと、本当の意味での「優良ホール」とはいえなくなるかもしれません。コロナ後の世界では、ホールのハード面も重要視されることは容易に想像されます。

昨年9月、大阪城ホールアリーナで行われたスモークテストでは、スモークがどのように流れ、何分で換気されるかという実証実験を行いました。将来的には、施設ごとに異なる条件を把握し、単なる換気回数だけでなく気流そのものの実態を踏まえた空調設備の設計という概念も生まれてくるのではないのでしょうか。

また、施設の出入口にノズル式噴霧装置を設置し、全身・衣服・手荷物を除菌する機器も開発されています。これは装置前に立ち止まると、除菌液などを全身に吹き付け、衣服から手荷物など全身を除菌できる自動噴霧装置です。

さらに、施設の使用後に座席や室内などをアルコールで拭く作業はかなり大変です。これを自動で消毒する装置ができるとありがたいです。

— 2020年11月現在の100選 —

昨年選定された100選のいくつかを見てみましょう。

札幌サンプラザホール、栃木県総合文化センター、彩の国さいたま芸術劇場、千葉県文化会館、東京芸術劇場大ホール、横浜アリーナ、富士市文化会館ロゼシアター、まつもと市民芸術館、富山県民会館、愛知県芸術劇場、びわ湖ホール、国立京都国際会館、NHK大阪ホール、やまと郡山城ホール、たんば田園交響ホール、山口情報芸術センター、熊本県立劇場、宮崎県立芸術劇場、沖縄市民小劇場などがあります。

詳細は一般社団法人・日本音響家協会の公式サイトでご覧下さい。 <https://www.seas-jp.org>

大きな有名ホールもあれば、さほど知られていないホールもあります。しかし、これはあくまで音響家の立場から見て優れたホールが選ばれています。音響と同じく重要な照明設備などにも触れられていません。ホールのソフト・ハード両面の評価には、多くの専門分野の関与が必要です。いずれそのような時代が来るのではないのでしょうか。